

かしわざきこう

柏崎港地区

(新潟県柏崎市)

- 計 画 期 間 平成17年度～平成21年度
- 面 積 117ha
- 交付対象事業費 833百万円
- 市人口 84,671人 (地区内人口 2,115人)

ポイント 多面的観光交流エリアの形成による賑わい海洋レジャー海岸の形成とアクセス機能の向上

地区概要 海洋観光とマリンスポーツの交流拠点施設と緑地や港を眺望できる高台の散策ルートを一体的に整備することにより、賑わい再生への観光と憩い空間づくりを図る。

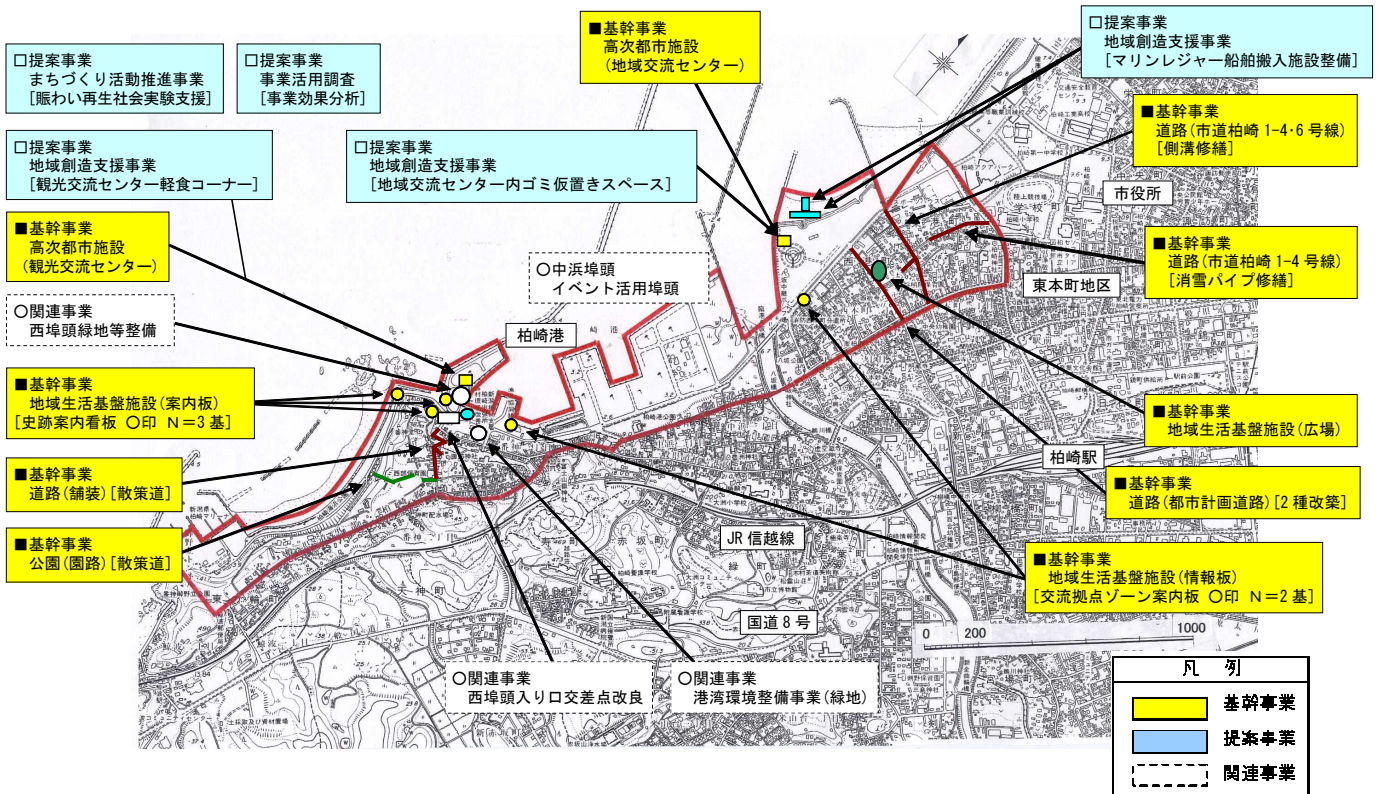
目 標 柏崎港地区の観光賑わい機能の強化により、中央海岸から鯨波海岸までの連続する4kmの観光海岸エリアとして整備して、年間100万人の海洋観光客復活の足掛かりとする。

指 標 市民団体による海洋クルーズの定着と安全なマリンスポーツエリアの維持活動の支援環境整備及び史跡再発見により、柏崎港地区の賑わい向上を目標とした。

項 目	現況値 (年)	→	見込み値 (年)
西埠頭来訪者数の増加	8千人(H15)	→	9千人(H21)
アクセス時間の短縮	21分(H18)	→	13分(H21)

事業内容 基幹事業 (793 百万円) 道路 (幅員 2~12m、延長 1,346m 消雪パイプ : L=268m)、公園 (1ヶ所、園路 245m) 観光交流センター (1ヶ所、378㎡)、地域交流センター (1ヶ所、136㎡)、案内看板設置 (3ヶ所)、広場整備

提案事業 (40 百万円) 賑わい再生市民社会実験支援、地域交流センター内軽食コーナー・ゴミ仮置きスペース (各々1カ所)、マリンレジャー船舶搬入施設、事業活用調査



地区の現況と課題

西埠頭では、観光船やイルカウォッチングクルーズ等が運航されている。憩い目的で港を訪れる市民も多いが、物流埠頭であるため賑わい空間としての機能整備が求められている。

「みなとまち海浜公園」では、恵まれた立地から市内外より多くの愛好者がマリンスポーツを楽しんでいるが、エリア内で輻輳するレジャー船舶の安全誘導が課題となっている。

又、港を見下ろす高台には史跡や展望スポットが点在しているが、魅力あるこれらのポイントが観光に充分活かされていない。



散策道視察

提案事業の特徴

賑わい再生市民社会実験支援

全国都市再生モデル調査事業により芽生えた市民団体による海の魅力紹介活動を継続支援しながら、整備される施設のソフト活用に繋げる。

マリレジャー船舶搬入施設整備

海浜公園砂浜に、水上バイク等レジャー船舶の搬入用施設を整備し、マリレジャー利用者の利便性向上を図る。



高台にある番神堂

計画策定プロセス

柏崎港活性化策の策定

新潟県、柏崎市、市民代表により柏崎港の観光活用に向けて検討委員会（H15～16）を開催して、物流埠頭から人の賑わい埠頭への転換等を目指し港湾計画の変更に向けた計画策定を行なった。

全国都市再生モデル調査事業

みなとの人に賑わい再生を目的に市民団体が社会実験（H15）に取り組んだ。上記活性化策の実現への必要性を証明すると共に、市民提案による機能整備を加えることにより柏崎港地区の一体的整備計画づくりへの提言を受けた。

現在も、施設のソフト活用に向けて団体相互の交流が続けられている。



西埠頭全景